

火山泥流再現「想像以上に速い」

【上富良野】実験観察を通じて火山を学ぶワークショップが、上富良野高と上富良野小で開かれた。生徒や児童は食品を使って火山泥流を再現する実験などを興味深く見学した。

日本ジオパーク全国大会十勝岳大会の関連行事として9月26日に実施。1926年(大正15年)に十勝岳の噴火に伴い発生した「大正泥流」の仕組みや、溶岩の流れ方を知ってもらおうと、十勝岳ジオパーク推進協議会が企画した。

上富良野高では同校と美瑛高の生徒計約110人が参加。

上富良野高小生徒ら実験観察し学ぶ

実験は全国大会に参加した秋田大の林信太郎名誉教授ら約20人が担当した。

会場では、雪に見立てアイスクリームに熱した食塩をかけて溶かし、融雪型火山泥流を再現したほか、砂を1100度に熱して溶岩を作るなど6種類の実験を行った。

上富良野高1年の堀田百花さん(15)は「溶けたアイスの流れが想像以上に速かった」と驚いた様子。林名誉教授は「火山の麓の子どもたちに噴火のときに何が起こるか知ってもらえれば」と話した。

(鹿野海人)



上富良野高で行われた溶岩流の再現実験